

様式1

令和7年度 学校評価表

学校教育目標		ともに学び合い、未来を創る子供の育成												
a ミッション		小中連携教育を基盤とした確かな学力の育成				a ビジョン		○児童の主体性を育み、未来につながる学力をつける学校 ○幼・小・中の連携を深め、学び合いにより相互に高め合う学校 ○家庭・地域とともに、子供の育ちを考える学校				尾道市立美木原小学校		
評価計画					自己評価					学校関係者評価			改善計画	
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月	1月	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
学びを創る	確かな学力の育成	読解力の向上	①「言葉」を手がかりにした「読むこと」の指導。 ・計画的な校内研修の実施 ・授業内に話すこと・読むこと・書くことを取り入れる。	①国語科単元末・学期末テスト（思考・判断・表現） 80点以上の児童の割合	①80%以上	①81%		A	・国語科単元末・学期末テストの読み取り領域において、80点以上の児童の割合が81%であった。フレームリーディングを取り入れた読む活動に重点的に取り組んだ成果が見られる。引き続き、伝え合う授業を行いながら、読みを深める授業づくりについて研修を重ねていく。 ・確かな学力の育成に係る児童アンケートにおいて、1学期末の肯定的評価は84%であった。項目で見ると、「ドリルタイムに、集中して取り組んでいます」については、89%と高く、ドリルタイムを毎日続ける中で、自信をもって言説をする姿が見えてきたことが考えられる。また、「30分かえりでは、『どこまで分かったか』『もっと考えてみたいこと』を考えています。」については、76%と目標値の80%を下回っており、授業において、学んだことを実感できる場を設定し、次の活動への見通しをもたせる振り返りをしていく必要がある。					
			②基礎学力を高めるためのドリルタイムの充実。 ・全員が集中して取り組む10分間の実現。 ・毎回のドリルタイムで音読に5分以上取り組む。	②標準学力調査の通過率「読むこと」全国平均以上の児童の割合（国語科）	②80%以上	②未実施								
			③話し合い活動の充実 ・互いの考えを伝え合う時間を毎時間の授業内に設定する。	③児童アンケートの肯定的評価	③80%以上	③84%								
生活を創る	「学校生活を創る」主体的で実践的な力の育成	主体性の向上	①学級活動の充実 ・児童主体の話し合い活動（形式を統一） ②委員会活動の充実 ・児童主体の児童集会等の実施（月に一度の児童集会、全校発表、イベント活動、半期に1回以上）	①児童アンケートの肯定的回答の割合（7月・12月実施） ・学級活動について（全学級） ・委員会活動について（5・6年）	80%以上	120%		A	・1学期の児童アンケートの結果、肯定的評価をした児童の割合は、学級活動については83.8%で、委員会活動については100%だった。今年度の6月には全校児童が「いじめをなくするにはどうすればよいだろう。」を議題にし、各学級でクラス会議を行った。どの学級も月に1回以上クラス会議を行っており、自分の考えを友達に伝えようとする姿が多く場面で見られた。 ・どの委員会も半期に1回以上イベントを企画し、主体的な活動ができた。 ・今後は、話し合いを通してよりよい解決策を考えたり、実践したことを振り返ったりしながら児童が「話し合いをして良かった。」と実感が持てるようにしていく。					
働き方改革	豊かな教育活動の実践	働き方の質の向上	学級・学年間交流を通した複数指導による協働的な働き方の実践	教職員アンケート「組織の一員として協働的な働き方ができた」の肯定的回答（7月・12月）	85%以上	105.0%		A	・1学期の教職員アンケートの結果、目標値を5ポイント上回ることができた。行事や体育、音楽等で複数指導を行い、指導の効果や児童の意欲を高めることにつながった。また職員の振り返りからも「ベア学年での指導により協働的な場面が増えた」「相談しながら活動できた」等協働的な働き方の向上が成果として見られる。課題としては勤務時間が異なる職員との連携が不十分であることが挙げられる。連携の取り方の工夫や全体に目を向けた働き方に取り組む。					

【自己評価 評価】

A：100≦（目標達成）
C：60≦（もう少し）<80B：80≦（ほぼ達成）<100
D：（できていない）<60

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。